

題材名 油絵制作「キュビズムで静物画を描こう」

学年 第 1 学年

教科・科目 芸術・美術 I（2 単位）

題材設定の理由

今までの課題を通じ、観察力、描写力、色彩能力、構成力など美術の基礎的能力を習得したといえる。今回はその能力をいかに自分の表現として応用することができるかが大きな目標となる。

抽象画を学ぶことで、見たものをそのまま描くのではなく、自分の表現に置きかえて描く力を習得することができる。また他者の作品を鑑賞することでお互いの個性を認め合う力をはぐくむ。

題材の目標

- ① 美術の基礎的能力を自己の表現として応用する力をはぐくむ。
- ② 抽象画に興味をもたせる。
- ③ 美術に対しての固定概念をなくし自由に表現する力を身に付けることで、表現する楽しさを知る。
- ④ 油絵具での表現の幅を広げる。
- ⑤ 自己の考えや想いを形にする力を育て、個性を伸ばす。
- ⑥ 他者の作品を鑑賞することでお互いの個性を認め合う力をはぐくむ。

計画 総時間数 12 時間（スケッチ 4 時間、制作 7 時間、鑑賞 1 時間）

準備 生徒 筆記用具（鉛筆、消しゴム）、油絵具のセット
指導者 参考作品（作品例、ピカソやブラックの作品）、課題プリント（計 6 枚）
キャンバス、新聞紙

評価の観点及び趣旨

《美術への関心・意欲・態度》

抽象表現に興味をもち、キュビズムを理解し、意欲的に制作に取り組んでいる。

《発想や構想の能力》

自己のイメージを、形や色、絵具の効果を考え表現することを構想できる。

《創造的な技能》

作業が丁寧であり、油絵具の特徴を理解し工夫した表現（彩色や配色、マチエール等の技法）ができる。

《鑑賞の能力》

他者の作品を鑑賞することで、自己の作品の反省点に気付くことができる。また、他者の感じ方、考え方を理解し、お互いの考えを認め合うことができる。

年間指導計画

到達目標	美術の幅広い創造活動を通して、表現する楽しさを知る。様々な表現方法により個性を伸ばすとともに、お互いの個性を認め合う力をはぐくむ。
到達目標に向けての具体的な取組【指導上の留意点】	・幅広い方向からものの作りの面白さを伝えるため、表現ではデッサン・色彩・構成・材料や用具の生かし方などの技能を指導するとともに、意図に応じた多様な表現方法の工夫を行う。 ・鑑賞では、他者の作品を鑑賞し意見を交換することで、作者の心情や意図と表現の工夫を理解し、美術への関心をもたせるよう指導する。

月	題材・題材名	学習のねらい・学習活動	評価のポイント
4	グレースケール	・鉛筆で11段階の明度の変化を描写	・鉛筆の扱い方、明るさの違いによる表現の理解
	手のデッサン	・自分の手をモチーフにデッサン	・立体物としての量感の表現
5	トーン表の制作	・色彩の基礎、色の三属性を理解 ・トーン表に従い絵の具で着色	・色の変化、特徴の理解 ・絵の具の扱い、求めている色の作成
6 7	色彩構成	・モチーフを色彩分割し無彩色で表現し、有彩色へ置換え着色	・色の対比、無彩色が有彩色になった時どのような色になるかの理解
8	芸術鑑賞	・高校展か美術館へ行き、鑑賞レポートを書く	・芸術作品に関心をもち、理解しようとする姿勢
9 10	油絵による 貝塚の風景	・校内の好きな風景をスケッチし、それを頼りに油絵を制作 ・油絵の具の使い方、特徴、技法を理解し描く	・風景をよく観察し、構成、比例、パース等の正しい理解と描写 ・油絵の具の特徴の理解と、技法の習得
11	立体基礎	・立体の基礎、モノが建つ原理を理解し、紙でより高い立体物を作る	・立体の基礎、原理の理解 ・紙の強度、バランスの理解と工夫
	美しい立体	・正立方体を二つに分割した形をケント紙で作る、その二つをくっつけ美しい立体物を作る	・折り方や接着面の工夫 ・いろんな方向から見ても美しい形 ・空間の上手な把握
12	手の立体	・粘土を使い、モデリングによる手の制作	・手の構造の確実な理解 ・立体物としての重量感の表現
1	キュビズムを 使った油絵	・ピカソやブラックの作品を鑑賞し、キュビズムを理解 ・モチーフを上からと横からスケッチし、そこから見えてくる形を油絵で制作	・抽象画の理解 ・いろんな方向から見たモチーフの形を上手に画面で構成 ・絵の具による表現の面白さを作品に反映
2	小説リレー 色鉛筆による 抽象画	・一行ずつ物語を書いてゆき、みんなで一つの物語を完成させる ・できた物語の感想を線で表現し、色鉛筆で着色	・一本一本の線の形で、気持ちや感情を表現 ・色鉛筆の特徴を理解し、配色や色の重なり工夫

本題材の学習指導計画(本時は3・4時間)

時間	学習活動	ねらい・指導上の留意点	評価の観点・方法
1	キャンパスの地塗り	- 今まで、あまり使わなかった色を地塗りに使い、地塗りの効果を知る。 - それぞれの効果を確認する。	◎Ⅰ 本題材への興味・関心・意欲をもって制作している。 【観察法】
2	課題プリント「いろんな方向からのスケッチ」 ①に絵具の箱(蓋を開け絵具が見える状態)をスケッチする。	- スケッチにおいて、しっかり描写することで、次の制作につなげる。 - 箱の中の絵具が見えるようにしてモチーフを置くようにする。	◎Ⅱ 意欲的に制作活動を行っている。 【観察法】 ◆Ⅰ モチーフの構造を理解し、描写できている。 【課題プリント】
3	課題プリント「いろんな方向からのスケッチ」完成 ② 上から見たオイル瓶 ⑤ 横から見たオイル瓶 ③ 上から見たクリーナーボトル ⑥ 横から見たクリーナーボトル ④ 横から見たオイル壺 ⑦ 上から見たオイル壺 ⑧ 横から見たナイフ ⑨ 上から見たナイフ ⑩ 筆を3本以上	- それぞれのモチーフの構造をしっかり観察することで、描写力の向上を図る。 - このスケッチを基に次の制作を行うのでしっかり描写させる。	
4	キュビズムの理解 - 課題プリント「キュビズム」に沿って課題を理解する。 アイデアスケッチ制作 「いろんな方向からのスケッチ」を基に「制作プリント」にアイデアを描く。 「制作プリント」を基にプリントに下絵を制作する。	- 抽象画の面白さを理解する。 - どんなアイデアでも肯定的に指導する。 - モチーフの形の面白さを表現するよう指導する。	◎Ⅲ 抽象画へ興味・関心をもって取り組んでいる。 【観察法】 ▲Ⅰ 柔軟な発想でアイデアを出すことができている。 【観察法・課題プリント】 ▲Ⅱ モチーフの形の面白さを表現しようと模索している。 【観察法・課題プリント】
5 6 7 8 9 10 11	油絵具で制作 - 下絵を基に制作する。 - 制作中に気持ちに変化し、下絵と異なった作品になっても良い。	- モチーフのどの形に魅力を感じ、それをどのように表現したいのかを考えながら制作する。 - 油絵具の表現を生かす。 - 気持ちの変化により、下絵と異なる作品になっても良い事を伝える。	◎Ⅲ 抽象画へ興味・関心をもって取り組んでいる。 【観察法】 ▲Ⅲ 自己のイメージをしっかりと、モチーフの形の面白さを表現できている。 【作品】 ◆Ⅱ 油絵具の特徴を理解し、表現に工夫がみられる。 【作品】 ◆Ⅲ 作業が丁寧で、美しい作品である。 【作品】
12	鑑賞 - 自己評価プリントにコンセプト等を記入。 - 他者の作品を鑑賞し鑑賞プリントに記入。 合評 - 何点か作品を紹介し本時のまとめを行う。		★Ⅰ 自己の作品の反省点に気付いている。 【課題プリント】 ★Ⅱ 他者の感じ方、考え方を理解し、他者の意見を認めることができている。 【課題プリント】

◎は《美術への関心・意欲・態度》 ▲は《発想や構想の能力》 ◆は《創造的な技能》 ★は《鑑賞の能力》を表す

本時の学習指導計画

時間	●学習のねらい ・学習活動	指導上の留意点	評価の観点・方法
(授業前) 開始	道具の準備 ・鉛筆、絵の具セットを準備。 起立・礼・点呼 ・名前を呼ばれたら返事をする。 ・授業に臨む姿勢をつくる。	道具の準備 ・鉛筆、絵の具セットを各自で準備させる。 号令・出欠確認 ・名前を呼んで出欠の確認をする。 ・授業に関係のない物はしませ、授業に臨む姿勢をつくらせる。	
導入 3分	本時の流れを聞く ・本日の活動内容を把握。	本時の流れを説明 ・授業の流れを、黒板を使って説明。	
展開 (プリントの制作) 47分	課題プリントの制作 ●それぞれのモチーフの構造をしっかりと観察することで、描写力の向上を図る。 ・続きを制作 ② 上から見たオイル瓶 ⑤ 横から見たオイル瓶 ③ 上から見たクリーナーボトル ⑥ 横から見たクリーナーボトル ④ 横から見たオイル壺 ⑦ 上から見たオイル壺 ⑧ 横から見たナイフ ⑨ 上から見たナイフ ⑩ 筆を3本以上	課題プリントの制作 ・前回の「いろんな方向からのスケッチ」のプリントを返却する。 ・しっかりモチーフを見てスケッチできているか机間指導で確認し、きていない生徒を支援する。 ・それぞれのモチーフの構造をしっかりと観察して描写するよう指導する。 ・このスケッチを基に次の制作を行うのでしっかり描写させる。	《美術への関心・意欲・態度》 意欲的に制作活動を行っている。 【観察法】 《創造的な技能》 モチーフの構造を理解し、描写できている。 【課題プリント】
休憩 10分	・プリントが終わっていない場合、引き続き制作する。 ・終わっている場合、絵の具セットを片付ける。 ・教科書を用意する。	・遅れを休憩中に取り戻すように指示する。 ・次の授業の準備をさせる。	
展開 (説明) 10分	キュビズムの説明 ●抽象画の面白さを理解する。 ・美術Ⅱの教科書を各テーブルに1冊準備する。 ・課題プリントに目を通しながら説明を聞く。 ・プリントのカッコ内を記入。 ・教科書の作品を見ながら抽象画を理解する	キュビズムの説明 ・美術Ⅱの教科書を各テーブルに1冊配付する。 ・課題プリント「キュビズム」を配付しプリントに沿って説明を行う。 ・教科書P9のブラックの作品、P24のモンドリアンの作品を紹介し、抽象画の理解を促す。	《美術への関心・意欲・態度》 抽象画へ興味・関心をもって取り組んでいる。 【観察法】
展開 (アイデアの制作) 35分	アイデアスケッチを制作 ・「いろんな方向からのスケッチ」を基にアイデアを描く。 ・アイデアスケッチ基に下絵を制作する。	アイデアスケッチを制作 ・どんなアイデアでも肯定的に評価する。 ・モチーフの形の面白さを表現するよう指導する。 ・モチーフを描くのではなく、画面を分割する・構成することをイメージして描かせる。	《美術への関心・意欲・態度》 抽象画へ興味・関心をもって取り組んでいる。 【観察法】 《発想や構想の能力》 柔軟な発想でアイデアを出すことができる。

片付け 5分	片付け ・プリント3枚を各班で回収する。 ・使った道具を片付ける。 ・次回の連絡を聞く。 ・チャイムとともに号令。	片付け ・班で協力して片付けを行うよう指導する。 ・片付けの終わった班は席で待機させる。	
-----------	---	--	--

本題材の評価及び評価の総括

《本題材の評価》

観 点	美術への関心・意欲・態度				発想や構想の能力				創造的な技能				鑑賞の能力			本 題 材 総 合 点 計
名 前	観察法による評価			点 数 計	作品と観察法による 評価			点 数 計	作品と観察法による 評価			点 数 計	感想用紙から の評価		点 数 計	
	I	II	III		I	II	III		I	II	III		I	II		
	/10	/10	/5		/10	/10	/10		/10	/10	/10		/5	/10		

《本題材の評価の総括》

観 点	美術への 関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力	総計
A+	24, 25	29, 30	24, 25	19, 20	96～100
A	22, 23	26～28	22, 23	17, 18	87～92
B+	19～21	23～25	19～21	15, 16	76～83
B	15～18	18～22	15～18	12～14	60～72
C	10～14	13～17	10～14	9～11	42～56
D	6～10	7～12	6～10	5～8	24～40
E	～5	～6	～5	～4	～20

授業の様子

